

## 第6学年 国語科学習指導案

### 1 単元名 考えを発信しよう

### 2 児童の実態と本単元の意図

#### (1) 児童の実態



#### (2) 単元について

本単元は、小学校学習指導要領国語編第5学年及び第6学年〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(1)ウ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」及び、オ「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。」を受けて設定した。また、「明確な根拠をもち、説得力のある意見文を書く」という本単元の言語活動は、言語活動例(2)ア「事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。」に基づいている。

#### (3) 指導について

指導にあたっては、単元に入る前に新聞の投書を教室に掲示しておく。これは、書くことへの意欲付けを図るとともに、モデル文として活用するためである。

次に、単元の導入で本単元のゴールを「自分の考えを新聞に投書する」と児童とともに設定する。そして、単元のゴールに向かってどのような学習が必要かを話し合い、学習計画表を作成する。学習計画表を児童とともに作成することで学習の見通しを児童と共有し、主体的な学びにつなげる。また、「新聞に投書する」という単元のゴールを示すことによって書く目的を明確にする。そして、年代を問わず様々な人が目にする新聞の特徴をおさえ、誰に向けて書くのかという相手意識ももたせたい。さらに、導入段階で、書いた文章をお互いに読み合いアドバイスし合うライティングパートナーも決める。個人的な活動になりやすい書く活動においても、パートナーとともに協働的に学べるようにする。お互いにアドバイスし合うことで、対話的な学びにつなげたい。

実際に書く学習過程については、題材の設定、情報の収集、内容や構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有をいったりきたりしながら最終的な新聞への投書というゴールに向かって学習を進めていく。その際に、題材の設定や情報の収集ではイメージマップを活用し、内容や構成の検討ではフィッシュボーンを使う。このような思考ツールの活用は、児童の思考を可視化するとともに、ライティングパートナーとの対話をより効果的なものにする。考えの形成、記述の場面では、説得力のある文章にすることを意識させる。そのため

に、自らの意見に対する理由を事実や具体例をもとに記述できるようにしたい。特に、事実については具体的な数値を入れた情報を入れることで説得力が増すということの本単元の学習で理解できるようにする。事実と理由、主張がうまく結びつくことによって説得力のある論理的文章が書けることを経験させる。

単元の終末においては、言葉に着目しながら単元全体の振り返りを行うことで、児童自身にどのような力が付いたのかを自覚化させ、深い学びにつなげたい。

本単元では、積極的にタブレットPCを活用していく。タブレットPCの文章作成ソフトを使って記述を行う。そして、自分自身で文章を読み直し、よりよい書き表し方に直していく。さらに、ライティングパートナーとも文章を共有してお互いにコメントを入れ合いながら共同推敲を行う。共有場面でもタブレットPCを活用し、多くの意見文に触れられるようにする。そして、文章作成ソフトのコメント機能を活用し、コメントを入れることでそれぞれの意見文の書き表し方に着目させたい。

### 3 単元の目標

- (1) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕 (1)カ
- (2) 事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1)ウ
- (3) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1)オ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

### 4 単元で取り上げる言語活動

考えたことや伝えたいことについて、書き表し方を工夫して意見文を書く。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B (2)ア)

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 ( (1)カ)	①「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。( B (1)ウ) ②「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 ( B (1)オ)	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書くようとしている。

6 指導と評価の計画（全6時間扱い 本時5／6時）

	時	主な学習活動	○指導上の留意点・評価 ◎教科等横断 ●生活の場面
見通し	0	新聞の投書を掲示しておき、学習への意欲付けを図る。	○児童の学習への意欲付けのために、新聞の投書を教室に掲示しておく。掲示した投書をモデル文として活用できるようにする。 ●新聞の活用
	1	「意見文を新聞に投書する」ことを単元のゴールとして設定し、単元のゴールに向けてどのような学習が必要かを話し合い、学習計画を立てる。	○単元のゴールを児童と設定し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。新聞への投書という目的意識と多様な他者を書くという相手意識をもたせる。 ○総合的な学習の時間とつなげることで、教科等横断的な指導となるようにする。 ◎総合的な学習の時間「12歳の主張」 ●新聞への投書
題材の設定 情報の収集	2	感じていることや考えていることから題材を決め、書くための情報を収集する。	○イメージマップで考えを広げることで、題材を設定しやすくする。 ○社会科で学習したSDGsとかかわらせ、自分にできることという題材の設定につながるようにする。 ◎社会科「SDGs」
内容の検討 構成の検討	3	筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考える。	○フィッシュボーンで考えを構造化し、意見文の内容、構成を検討しやすくする。 【知識・技能①】思考ツール
考えの形成 記述	4	自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して意見文を書く。	○タブレットPCの文章作成ソフトで文章を記述させ、推敲や共有が容易にできるようにする。 ○イメージマップやフィッシュボーンを活用することで、考えを記述しやすくする。 ○事実と理由、主張をうまく結びつけ、説得力のある論理的な文章が書けるようにする。書くときに事実と意見を区別して書けるようにする。 【思考・判断・表現①】記述した文章
推敲	5	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。	○文章作成ソフトを活用して文章を読み合い、コメント機能を使い、共同推敲を行う。 【思考・判断・表現②】推敲した文章
共有	6	友達と読み合って交流する。	○文章作成ソフトを活用してお互いの文章を読み合い、共有する。コメント機能を使い、文章を読んで感じたことや思ったことを相互交流する。 【主体的に取り組む態度】単元の振り返り

考えを発信する意見文を書く

7 本時の学習指導

(1) 目標 他者との交流を通して、文章全体の構成や書き表し方など、文や文章を整えることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 (5/6時間)

学習活動	学習内容	○指導上の留意点(配慮・手立て) ◎評価
1 見通しをもつ。 2 学習課題をつかむ。		○前時の学習を振り返り、既習事項をおさえ、本時の学習につなげる。 ○本単元の学習計画や単元のゴールを確認することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。単元のゴールに向けて、本時でどのような課題を設定する必要があるのか考えさせ、児童の言葉で課題を設定する。
3 学習課題を解決する。 (1) 個人で推敲する。	○推敲の仕方	○これまでの学習を振り返り、文章を推敲する観点を明示する。それらの観点に沿って、推敲を行う。 ○コメント機能を使い、自分の文章で気になっているところを記録しておく。記録したものを友達に読んでもらう際の読む視点とする。文章を書き直す際には、どこをどのように書き直したのかがわかるように、文章作成ソフトの校閲機能を活用し、変更履歴を残しておく。
<p>◎推敲チェックリスト</p> <p>(内容) ・事実や意見が区別して書かれているか?(具体的な数値、自らの経験など) 主張がはっきりしているか?(～していきたい。～したほうがよい。～してほしい。)</p> <p>・引用の仕方は正しいか?(～によると、～といわれている。)</p> <p>・反対意見の予想とそれに対する反論が書かれているか?(確かに～。しかし～。)</p> <p>(形式) ・文末の表現がそろっているか?</p> <p>・段落がえが正しく行えているか?</p> <p>・誤字脱字はないか?</p>		
4 意見文の清書を行う。 5 振り返りをする。		○単元の導入で決めたライティングパートナーと意見文を読み合い、文章作成ソフトのコメント機能を活用して、お互いの意見文にコメントを入れる。コメント機能を使う時には、話し言葉と書き言葉で読み手の受け取り方が変わることを意識させる。 ○タブレットPCを活用し、学級全体で意見文を読み合い、様々な書き表し方に触れさせる。気付いたことや気になったことがあった場合には文章作成ソフトのコメント機能を使い、コメントを入れさせる。 ○入れてもらったコメントをもとに、意見文の清書を行う。文章を直すかどうかの判断は書き手の責任で行うようにする。 ◎他者との交流を通して、文章全体の構成や書き表し方など、文や文章を整えている。(思考・判断・表現) 【推敲した文章】 ○本時の学習について学習内容や学習活動等について振り返らせ、本時の学習を自覚化させる。さらに、生活の中でどのように生かせるのかも意識させる。
<p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で意見文を読み直すと、自分の言いたいことがはっきり伝わらないところがあったので直した。言いたいことを伝えるために、意見と理由を結び付けて書くことが必要だと思った。理由には、具体的な数値の入ったデータや自らの経験を入れると説得力が増すことを学んだ。</li> <li>・いろいろな人に書いた文章を読んでもらって、コメントをもらい、自分の意見文がよりよくなったように思いました。自分では気が付かなかったところも教えてもらうことができました。書くこともひとりで行うのではなく、みんなで協力して行うことが大切だと感じました。</li> <li>・これから先も文章を書くことがあると思うので、書き終わってそこで終わりではなく、何度も自分で読み返したり、他の人に読んでもらったりしながらよりよい文章にしていきたい。今回書いた意見文は、ぜひ新聞に投書したいと思います。</li> </ul>		

(3) 板書計画

自分の考えを  
新聞に投書しよう⑤

◎書いた意見文  
これでいい？  
いい↓ 人

理由  
・がんばって書いたから  
・書き終わったから

ダメ↓ 人

理由  
・読み直していないから  
・新聞に投書するのは  
まだ心配だから

課 推敲をしよう。  
自分の文章を読み直して  
おすすめする  
おすすめする

○手順

推敲する観点

振り返り